

〔論文〕

# 「バイエル」によるピアノ練習に関する一考察 (2) —テキストマイニングによる自由記述の分析—

井 上 裕 子

## はじめに

1880年に日本に持ち込まれた「バイエル」は、今なお日本では数多く出版されている教則本である。保育士養成校でも使われている所は多く、大阪城南女子短期大学（以下「本学」という）でも106曲中27曲を課題にあげている。

筆者は2014年に『「バイエル」のピアノ練習に関するアンケート』<sup>(1)</sup>を行い、学生が「バイエル」の神髄を理解し、達成感を味わっている、ということがよく分かる結果を得た。

今回は2014年に行ったアンケートの自由記述の部分をテキストマイニングで分析し、言葉の面から、学生が「バイエル」に対してどのようなイメージをもっているのかを考察した。

## 目的

本調査の目的は、本学総合保育学科の学生が、「バイエル」による練習を、どのように捉えているのかを知る所にあり、本調査結果を基に、今後のピアノ指導の参考にすることにある。

## 方法

### 1. 調査票の構成

調査票は、『「バイエル」によるピアノ練習に関するアンケート』と言う題でA4サイズ1枚と本学総合保育学科1年生のバイエルの課題として出されているNo.12・13・23・24・44・65・66・68・69・72・73・74・78・80・81・82・86・88・91・96・97・98・100・101・102・103・104（『標準バイエルピアノ教則本 全音音楽出版社』）以上27曲の内12、13を除く25曲のはじめの数小節をコピーしたA4サイズ1枚を添付して渡し、アンケート調査票とした<sup>(1)</sup>。

### 2. 調査対象

調査は、2014年1月9日（木）～1月25日（土）までに指導担当教員を通じて、本学総合保育学科の学生にアンケートを配布し回答を得た。

配布対象学生は、2013（平成25）年度生1年127名で、回答学生は108名（回収率85.0%）であった。

### 3. 分析方法

アンケート調査票の自由記述は、「茶筌」形態素解析ソフトを使って解析整理し、そのデータをExcelに取り込み、ピボットテーブルを使ってヒストグラムを作成した。なお「茶筌」は、奈良先端科学技術大学院大学自然言語処理学講座で開発され松本裕治氏の監督の下、管理配布されている。

## 自由記述のテキストマイニングによる分析

### 1. 弾いて好きなバイエルの理由

「弾いて何番が好きですか」という質問の番号は上位順に、100・104・103・98・78番であった。図1・表1より頻度が特に多かった言葉は、第1位「好き」25.0%、第2位「弾く」16.9%、第3位「リズム」15.4%、第4位「楽しい」7.4%、第5位「テンポ」7.4%であった。

100・104・98・78番は装飾音符、付点のリズム、左右の手の交差、置き止めなど様々な奏法が出てくる難しい曲であるが、98・78番はテンポも速くポジティブなはつらつとした曲で、100・104番は難しい分克服した時の達成感が大きい曲である。

「好き」、「弾く」、「リズム」、「楽しい」、「テンポ」などの言葉も、実際に演奏して感じたこととして使われていることが多かった。

選ばれている各曲の内容から考えると、様々な奏法やリズムの難しい曲ではあるが、克服して弾くことが出来るようになれば、各曲の速度記号に近いテンポにもっていけるようになるので、弾ける楽しさを味わい好きになるという流れが出来上がる。まさに納得のいく言葉が並んでいると言える。

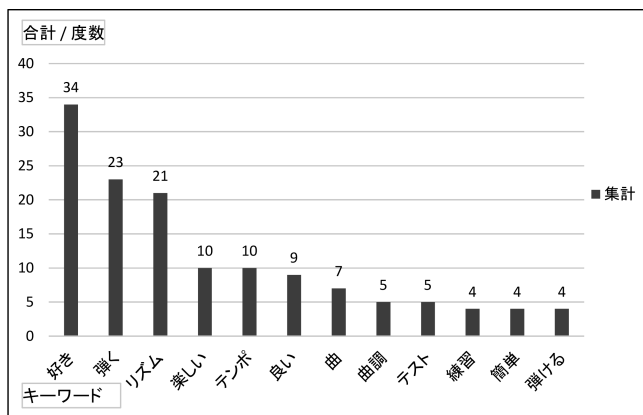


図1 「好きな理由」のキーワードのヒストグラム

表1

キーワード	度数	%
好き	34	25.0
弾く	23	16.9
リズム	21	15.4
楽しい	10	7.4
テンポ	10	7.4
良い	9	6.6
曲	7	5.1
曲調	5	3.7
テスト	5	3.7
練習	4	2.9
簡単	4	2.9
弾ける	4	2.9
総計	136	

## 2. 弾いて楽しいバイエルの理由

「弾いて何番が楽しいですか」という質問の番号は上位順に、100・103・98・97・104・78番であった。図2・表2より頻度が特に多かった言葉は、第1位「楽しい」15.5%、第2位「リズム」14.0%、第3位「弾く」10.1%、第4位「弾ける」9.3%、第5位「好き」7.8%であった。

100・98・104・78番に関しては、弾いていて好きなバイエルの項目でも述べた通りである。97番は3度と置き止めの練習曲で3度を揃えるのがかなり難しい。103番はアルベルティ・バス（イタリアの作曲家アルベルティ1717～1740年がよく用いた、和音を分散して弾く伴奏の形式）の練習曲であるが、音が単調なのでかなり弾き易い。

「楽しい」、「リズム」の言葉に関しては、曲の内容から使われていることが多く、客観的に曲を分析しているのが読み取れる。ここで気になったのが「弾く」と「弾けた」で、似ているようで微妙に意味が異なり、「弾く」に関しては“テスト曲で何度も弾いたから”など努力して何度も弾いて出来るようになったから、という内容に使われていることが多かった。しかしながら「弾けた」に関しては、“弾き易かった”、“乗り易い”、“顔が引きつらんと弾ける”など、曲が比較的簡単なものという内容に使われていることが多かった。

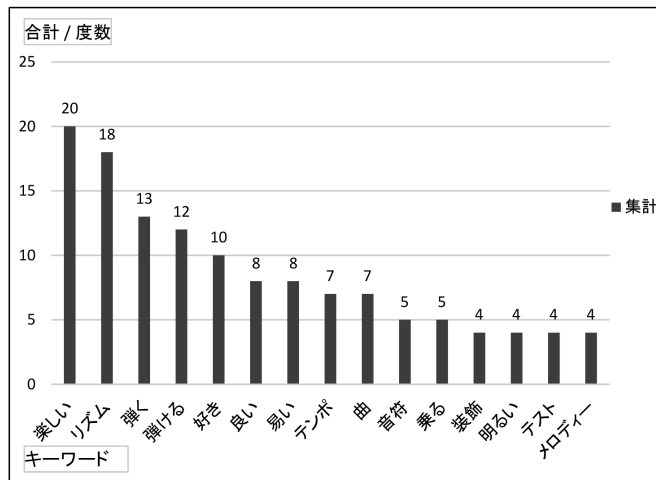


図2 「楽しい理由」のキーワードのヒストグラム

表2

キーワード	度数	%
楽しい	20	15.5
リズム	18	14.0
弾く	13	10.1
弾ける	12	9.3
好き	10	7.8
良い	8	6.2
易い	8	6.2
テンポ	7	5.4
曲	7	5.4
音符	5	3.9
乗る	5	3.9
装飾	4	3.1
明るい	4	3.1
テスト	4	3.1
メロディー	4	3.1
総計	129	

## 3. 弾いて難しいバイエルの理由

「弾いて何番が難しいですか」という質問の番号は上位順に、100・98・104・102・80・82・97番であった。図3・表3より頻度が特に多かった言葉は、第1位「指」13.2%、第2位「右手」12.1%、第3位「リズム」9.9%、第4位「左手」8.8%、第5位「音符」7.7%であった。

ここで新しく出てきた番号が102・80・82番で、102番は複付点と音を弾き直すことなく指を替え

る練習、80・82番は装飾音符、左右の手の交差、転調、調号シャープが2つ4つと多くなり黒鍵を弾く所が増える。

これら曲の内容を反映するかのよう、頻度が多かった言葉も「指」、「右手」、「左手」と、手についての言葉が上位で、“右手左手が上手く合わない”、“指が動かない”など、装飾音符やシャープが多く付いているため弾きにくいのか、手や指の使い方に関する内容でよく使われていた。また「リズム」や「音符」は、“音符がごちゃごちゃしている”、“見にくい”というものが多いためであるが、詰まるところ調号シャープの数が増えたためであり、これら全ての言葉が繋がってきていると考えられる。

表3

キーワード	度数	%
指	12	13.2
右手	11	12.1
リズム	9	9.9
左手	8	8.8
音符	7	7.7
手	6	6.6
難しい	5	5.5
シャープ	5	5.5
音	4	4.4
多い	4	4.4
弾く	4	4.4
全部	4	4.4
長い	4	4.4
合わせる	4	4.4
交差	4	4.4
総計	91	

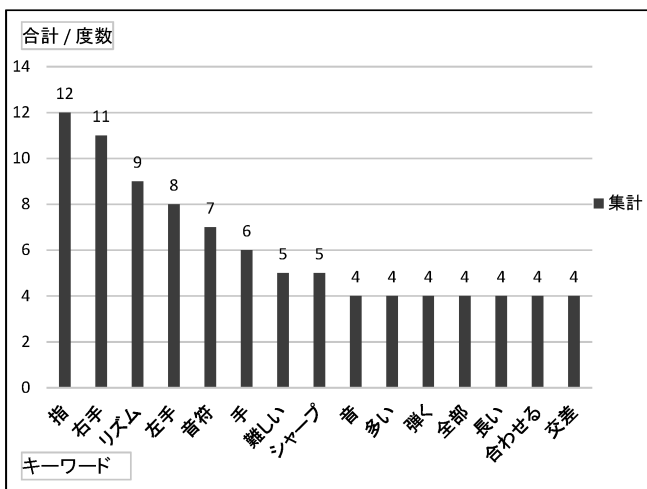


図3 「難しい理由」のキーワードのヒストグラム

#### 4. 弾いて嫌いなバイエルの理由

「弾いて何番が嫌いですか」という質問の番号は上位順に、102・104・100・98・82・97番であった。図4・表4より頻度が特に多かった言葉は、第1位「難しい」20.8%、第2位「指」16.7%、第3位「弾く」11.1%、第4位「右手」8.3%、第5位「左手」、「多い」が共に6.9%であった。

挙がっている番号は全て、他の項目でも出てきている番号であるが、第1位の「難しい」は、“複雑だから”、“ごちゃごちゃしているから”、“シャープが多いのですぐに分からなくなるから”、“楽譜を見ていると混乱して思うように出来ないから”など、楽譜の視覚的理由に多く使われていた。後の「指」、「弾く」、「右手」、「左手」は、演奏の仕方に対することに使われていた。「多い」については、“シャープが”、“装飾音符が”、“音符が”と視覚からの面と弾きにくいからという理由に多く使われていた。

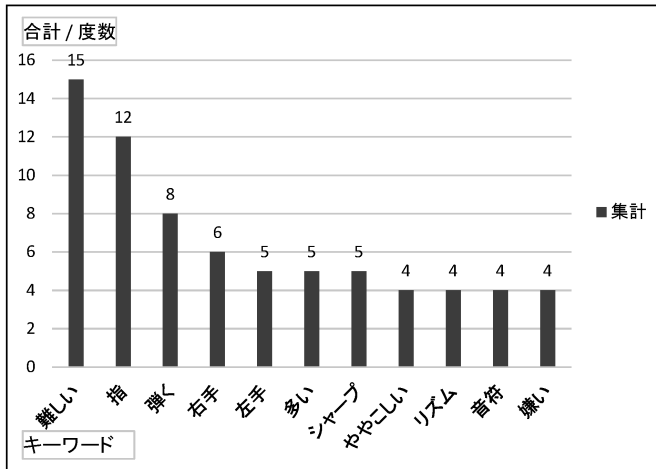


図4 「嫌いな理由」のキーワードのヒストグラム

表4

キーワード	度数	%
難しい	15	20.8
指	12	16.7
弾く	8	11.1
右手	6	8.3
左手	5	6.9
多い	5	6.9
シャープ	5	6.9
ややこしい	4	5.6
リズム	4	5.6
音符	4	5.6
嫌い	4	5.6
総計	72	

#### 5. バイエルはピアノをマスターするのに役立っている理由

「ピアノをマスターするのに役立っているか」という質問では、「役立っている」「やや役立っている」という回答が8割弱を占めている。その理由として図5・表5より頻度が特に多かった言葉は、第1位「指」15.9%、第2位「基礎」11.5%、第3位「出来る」7.6%、第4位「良い」「練習」が共に5.7%であった。第1位の「指」に関しては、「指番号や指使いの練習」、「指の訓練」、「指ならし」などの回答が多かった。第2位「基礎」に関しては、第11位にある「基本」と区別した。「基礎」とは、「それが無いと発展・進歩が望まれない、大切なもの」<sup>(2)</sup>つまり知識であり、「基本」とは、「一連の物事の中で、それを無視すると他のすべてのものが成り立たなくなる、大事なもの」<sup>(3)</sup>つまり認識を意味する。

「基礎」は、「基礎リズム」、「基礎だから」、「ピアノの基礎が分かる」、「基礎の練習」などで、「基本」は、「基本の動きを覚える」、「基本の指使いやリズム」などで使われていた。

ここで挙げられている言葉は、「良い」、「練習」も含め、第3位「出来る」に繋がってくるのであるが、「基礎」や「基本」が「分かる」(第6位)ようになる内容だから、「練習」すれば「出来る」ようになる、という「良い」スパイラルが働き、バイエルが教則本としての役目を、学生に理解させ、果たしていることが理解できる。

表5

キーワード	度数	%
指	25	15.9
基礎	18	11.5
出来る	12	7.6
良い	9	5.7
練習	9	5.7
弾く	8	5.1
弾ける	8	5.1
分かる	8	5.1
使い	7	4.5
音符	7	4.5
基本	6	3.8
読める	6	3.8
曲	6	3.8
ピアノ	6	3.8
色々	5	3.2
リズム	5	3.2
動く	4	2.5
上がる	4	2.5
初心者	4	2.5
総計	157	

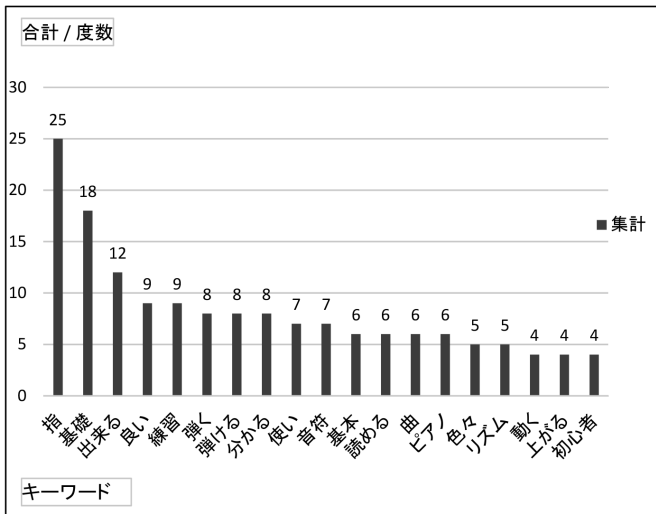


図5 「マスターするのに役立つ理由」のキーワードのヒストグラム

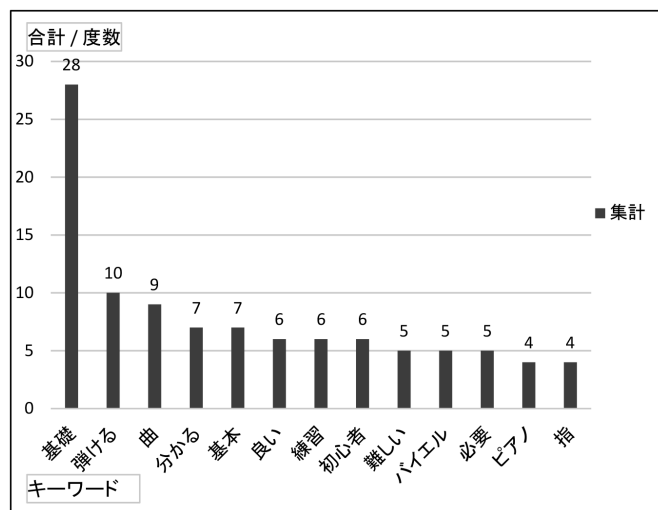
## 6. バイエルはピアノをマスターするのに必要という理由

「ピアノをマスターするのに必要か」という質問では、「必要である」、「やや必要である」という回答が8割弱を占めている。その理由として図6・表6より頻度が特に多かった言葉は、第1位「基礎」27.5%、第2位「弾ける」9.8%、第3位「曲」8.8%、第4位「分かる」と「基本」が共に6.9%であった。“基礎だから”という回答が一番多く、第1位の「基礎」という言葉にプラスして、“童謡が弾き易くなる”、“応用まで順番になっている”、“大事”という言葉と一緒に使われていることが多かった。

第2位「弾ける」と第3位「曲」は、“両手で弾けるようになる”、“段階を踏んで弾けるようになる”、“色々な曲のパターンが弾ける”、“自分に好きな曲も嫌いな曲も弾けるから”などと、同時に使われていることが多かった。

以上のことにより、ピアノをマスターするのに必要な「基礎」・「基本」がバイエルには書かれている、というこの教則本の内容を、学生にある程度理解されていることが読み取れる。

表6



キーワード	度数	%
基礎	28	27.5
弾ける	10	9.8
曲	9	8.8
分かる	7	6.9
基本	7	6.9
良い	6	5.9
練習	6	5.9
初心者	6	5.9
難しい	5	4.9
バイエル	5	4.9
必要	5	4.9
ピアノ	4	3.9
指	4	3.9
総計	102	

図6 「マスターするのに必要な理由」のキーワードのヒストグラム

## おわりに

今回は以前にKJ法（川喜田二郎氏提唱）で整理したアンケートを、テキストマイニングで分析を試みたのであるが、学生が注目しているキーワードが見えてきたことは収穫であった。

全6問の各1位と2位の言葉だけを取り出してみても、問1.「好き」「弾く」、問2.「楽しい」「リズム」、問3.「指」「右手」、問4.「難しい」「指」、問5.「指」「基礎」、問6.「基礎」「弾ける」と、学生がバイエルに感じていることや、彼らの中でのバイエルの位置、またバイエルに期待していることを読み取ることが出来た。

明治時代に日本に入ってきて時代遅れと言われることが多い教則本ではあるが、「バイエル」ほどピアノが弾ける弾けないに係わらず、人々に馴染みがあり理解されている教則本もないであろう。

全くの初心者がピアノを弾けるようになるには、多くの努力と根気が必要であり、継続は力なりとは言うが、言うは易く行うは難し、である。

ピアノ初心者が毎年多くなってきている保育士養成校で、どのようにすれば初歩の学生が短期間で弾けるようになるのか、頭を悩ますピアノ指導であればこそ、これだけ親しみのある教則本「バイエル」を使わない手はない。あとは1850年に出版された「バイエル」を、私たちピアノ指導者がどのような活用の仕方をするのが、このバイエルの教則本を後世に伝えていけるか否かに関わってくる。

「バイエル」について井口 基成（ピアニスト・ピアノ教育家 1908～1983、桐朋学園大学名誉学長）<sup>(4)</sup>は、「バイエルは一応、根本的には、組織的、体系的に編纂されて、テクニックの極く初歩的なもの、

基礎的なものが、よくまとまっておさめられているのであるが、今では余り幼い子供にはこれが絶対的に最上であるとは言えない」と1955年に述べている<sup>(5)</sup>。

また伊藤 康英（作曲家・編曲家 1960～）<sup>(6)</sup> は「バイエルは長年にわたって多くの学習者に愛用されてきたピアノ教本のベストセラーです。だからといって万能の教本というわけではなく、バイエルにも長所と短所があります。指導する際は、バイエルの優れた点を生かし、不足している点を補う工夫をしましょう。」<sup>(7)</sup> と述べている。

青島 広志（作曲家 1955～）<sup>(8)</sup> は「とくに古典派から初期ロマン派までのドイツ・オーストリア音楽を感じとらせるために良い勉強となります。」<sup>(9)</sup> と、書いている。

安田 寛（音楽学者 1948～）<sup>(10)</sup> は、「偉大な作曲家になろうとして、若きバイエルはピアノ演奏とピアノ教師をしながらドイツ各地を転々とした。その夢は果たせなかったが、彼の教則本はあの偉大な作曲家のインヴェンションに劣らない、いやもしかしたらそれ以上の仕事を世界の子どもたちにたいしてなしたのかもしれない。」<sup>(11)</sup> と書いている。

ここでもう一度思い出しておかなくてはいけない言葉は、バイエル自身がこの本につけた正式なタイトル「フェルディナント・バイエル 作品101 母たちに捧げる最も幼い生徒のためのピアノ入門書、内容：楽典と百六の手本、練習曲、訓練、音階、そして小曲、付録：大好きな旋律による楽しい百曲」<sup>(12)</sup> である。この「母たちに捧げる最も幼い生徒のためのピアノ入門書」の言葉が投げかける温かさを忘れることなく、すなわち家庭での子どもを見守る家族の愛情のように、学生に指導していきたい。

## 引用文献

- (1) 井上裕子. 「バイエル」によるピアノ練習に関する一考察：学生は「バイエル」をどのように捉えているのか. 大阪城南女子短期大学研究紀要. 49., 2014. p. 93-114.
- (2) 金田一京助, 金田一春彦, 見坊豪紀, 柴田 武, 山田忠雄 編. 新明解国語辞典. 三省堂, 1972. p. 249.
- (3) 金田一京助, 金田一春彦, 見坊豪紀, 柴田 武, 山田忠雄 編. 新明解国語辞典. 三省堂, 1972. p. 256.
- (4) “井口基成”. 20世紀日本人名事典. 日外アソシエーツ, 2004. コトバンク <https://kotobank.jp/> (参照 2018-12-23).
- (5) 井口基成 著. 上達のためのピアノ奏法の段階 附 ピアノ関係人名簿. 音楽之友社. 1955. p. 154-156.
- (6) “伊藤康英”. ぐるぐるピアノ. 音楽之友社. 2005. 奥付.
- (7) 伊藤康英 編者. バイエル ピアノ教則本. New Edition 「やさしい楽典」付. 音楽之友社. 2006. p. 4.
- (8) “青島広志”. Hiroshi Aoshima. “プロフィール”. 青島広志オフィシャルサイト. <http://aoshima-hiroshi.com/profile/> (参照2019-1-29)
- (9) 青島広志 監修・文. リカちゃんのバイエル. 音楽之友社. 1995. p. 2.
- (10) “安田 寛”. バイエルの謎：日本の文化になったピアノ教則本. 音楽之友社, 2012. 奥付.
- (11) 安田 寛. バイエルの謎：日本の文化になったピアノ教則本. 音楽之友社, 2012. p. 256.



(12) 安田 寛. バイエルの謎：日本の文化になったピアノ教則本. 音楽之友社, 2012. p. 234.

#### 参考文献

林 俊克 著. Excelで学ぶテキストマイニング入門. オーム社. 2006.

藤井美和, 小杉考司, 李 政元 編著. 福祉・心理・看護のテキストマイニング入門. 中央法規出版. 2005.

井上裕子. バイエルの研究：日本における「バイエルの受容と課題について」. 大阪城南女子短期大学研究紀要. 47, 2013. p. 73～81.

(いのうえ ひろこ：非常勤講師)

